



雄武

おうむ

OUMU

海・山・人

海を眺めるとオホーツク海が、山を眺めると北見山脈が、当たり前のように当たり前でない風光明媚な自然に囲まれたまち、北海道オホーツク「雄武町」。そこに産業が芽生え、自然の摂理に従って人々が生活を営む。先人の偉業を脈々と受け継ぎ、時にやさしく、きびしい幾多の季節をゆっくりと繰り返しながら今がある。そして未来へ。



オホーツクと大自然の調和で生まれた雄武町

海と山に囲まれた厳しい大自然の中で、
自然を愛する人々の生活があります。



水産業

オホーツク海は冬場、流水に覆われるため魚ができません。しかし、それゆえに漁場が守られ、水産資源に恵まれる世界的にも優れた好漁場となっています。雄武町には4つの漁港があり、毛ガニ、ホタテ、秋サケの主力魚種はもちろん、タコやウニ、昆布など、素材に優れた「雄武産」として産地ブランドになっています。また、HACCP（ハサップ）などの衛生基準に適合した加工施設も整備が進められ、漁業と連携した水産加工業が雇用を創出し、地域経済活動の中枢を担っており、水産業は「まちの元気」の源となっています。



農業

雄武町は、冷涼な気候と広大な土地によって、オホーツク管内屈指の酪農畜産基地となっています。乳用牛と肉用牛あわせて約1万頭、人口の倍以上の牛がいます。

搾乳ロボットや雌雄判別などの先進技術の導入や経営体の協業化が進んでいるほか、チーズやアイスクリームなどの加工品、近年では「韃靼そば」の生産にも取り組んでいます。一方で放牧地に草を食む牛がいて、背景にオホーツク海が広がる、昔から変わらない牧歌風景が癒しとなって人々を惹きつけ、農業景観そのものが「観光資源」となっています。





林業

雄武町の総面積は636.86 k²、これは東京23区とほぼ同じ広さです。この面積の3/4を森林が占めています。国土保全や水源涵養など、森林がもつ優れた機能はいうまでもなく、雄武町では「お魚を殖やす植樹」などの活動や、適切な森林管理の手法が認められ「森林認証」を取得して、認証林の面積拡大にも取り組んでいます。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの新国立競技場は認証木材の利用が予定されていて、雄武町の認証林から産出された木材の活用も期待されています。

商工業

雄武町の商工業は、商工会を中心として経営指導や融資制度の活用により、地域経済の活性化に寄与しており、また、まちの賑わいづくりとして、「屋台村」や「ふるさと盆踊り大会」、飲食店対策と出会いの場づくりとなる「雄武de街コン」の企画開催などに取り組んでいます。また、プレミアム商品券による地域内での消費喚起や、買い物支援対策としての移動販売車による巡回事業など、町民に密着した商業サービスの展開を図っています。



市街地



お得だよ商品券



屋台村



雄武de街コン



雄遊ランド



移動販売



オホーツクに陽が昇る街、雄武町 そのままの大自然

手つかずの自然と共生する町、雄武町。海と山に囲まれた厳しくも、海・山の恵ある大自然の中で人々が生活しています。必要な分だけを切り拓くことで、自然を残し共生することが雄武の町づくりです。

観光・風景

雄武町観光のシンボルは、オホーツク海の水平線から上る「日の出」です。なだらかなオホーツクラインからほんの少し突起した「日の出岬」には、ホテルやキャンプ場が整備され、まちの観光拠点となっています。

雄武市街の中心には「道の駅おうむ」があり、船を連想させるスカイキャビン型の展望台からは雄武の街並みとオホーツクのパノラマが楽しめます。「風の丘公園」は小高い丘に整備され、夏はウォーキングコース、冬は無料のスノーシューコースとしてスキーやスノーボードを楽しむことができます。また、雄武町観光をさらに盛り上げていくため、平成26年に観光協会を法人化し、町外から人材を募り、地域資源を活かした観光メニューづくりを進めています。





海・山・人ひびきあう町



春の催事

【毛ガニまつり】

毎年、4月下旬に開催され、海明けの旬の「雄武産毛ガニ」を堪能できます。雄武漁協主催で、その鮮度と旨さは折り紙つき。毛ガニ汁や毛ガニの釣堀コーナーには行列ができ、雄武町が「毛ガニ一色」に染まるイベントです。



初夏の催事

【おうむ産業観光まつり】

毎年、6月の最終土日に開かれる雄武町最大のイベント。初日はYOSAKOIソーランのステージや夜空を彩る花火の大迫力が楽しめます。2日目は何といても自慢の海産物や農産物がお買い得価格で即売され、両手一杯に荷物を抱える姿も。もちろんクール宅配便のサービスもあります。6月下旬は「雄武にGO!」です。



夏の催事

【インターナショナル・オホーツクサイクリング】

毎年7月上旬に開催される、「雄武町」から知床の北の玄関口「斜里町」まで、212kmのビッグステージで繰り広げられる自転車イベント。レースではなく、小学校低学年から80歳以上の高齢者まで一緒になって、オホーツク色とりどりのコースをさわやかに駆け抜けます。2日間のフルステージと1日コースが選べます。



秋の催事

【雄武の宝・うまいもんまつり】

9月の最終日曜日は「うまいもんまつり」がおすすめ。その名のとおり、雄武の味覚が勢ぞろい。ホタテや牛肉の豪快なバーベキュー、サケのつかみ取りなどのアトラクションも毎年大人気。「見て、触って、味わって」をコンセプトに、極上の味覚を家族や仲間と存分に堪能できるワンデー・イベントです。





雄武町の観光は「ホテル日の出岬」を抜きに語れません。客室は全室オーシャンビュー。山側は夏は緑、冬は白銀の丘が広がり、100%オホーツクの魅力に囲まれたロケーションは、他に類を見ません。温泉の泉質はナトリウムー塩化物強塩泉で、血液の循環促進や殺菌効果、痛みをやわらげる鎮静効果など様々な効能があります。食事は地元産をふんだんに使ったメニューがそろい、近年は関東方面からのツアー客から「北海道の穴場スポット」として人気が急上昇。スタッフも日々おもてなしの心を磨いてお客様をお待ちしています。

オホーツクの夕闇にライトアップされる
ホテル日の出岬



朝焼けの海が満喫できるホテル目の出岬
近くには全面ガラス張りの展望台
「ラ・ルーナ」があります。



温泉効能

神経痛・筋肉痛・関節痛・五十肩・運動麻痺・関節のこわばり・うちみ・くじき・疾病・慢性消化器病・慢性皮膚病・病後回復期・疲労回復・健康増進・虚弱児童・慢性婦人病・冷え性・切り傷・火傷

ホテル概要

1F……………レストラン、ショップ、大浴場(サウナ付)

露天風呂、リフト付入浴場

2F……………大広間、中広間、小広間、カラオケルーム

3～5F………客室(和室、洋室、和洋室)

6F……………展望室

※ホームページをチェック!

<http://hinodemisaki.jp/>



オホーツクのうまいものが勢揃い

OKHOTSK OUMU TOWN

雄武町

雄武町 特産品

・雄宝



・雄武メジカ



・アンガス牛



・流水昆布

商標登録出願中



・チーズ



・かまぼこ



・オホーツク海鮮ふりかけ



雄武町を応援してください

ふるさと納税

山海の幸に恵まれたオホーツクならではの特産品が豊富にラインナップ。雄武町ふるさと納税の特典メニューは時期によって変わるので、まずはホームページをチェック！

「雄武町」「ふるさと納税」で検索

ホームページを検索



●ほたて貝柱(冷凍)



●秋鮭「雄宝」(新巻)



●鮭(山漬け)いくらセット



●雄武産牛肉セット



●ホテル日の出岬宿泊券



・毛ガニ



・ホタテ



・うた

・コロケ



・だつたんそば



・だつたんそば茶



子育て

子育ての支援



次代を担う子どもたちは地域の宝物です。子育ての拠点は「認定子ども園・若草保育所」と「風の子児童センター」。若草保育所では、0歳児からの保育や障がい児保育、一時預かりにも対応しています。町の子育て施策は、保育料の低料金化(3歳児以上で月1万円以下、第2子5千円以下、第3子以降は無料)や、18歳までの医療費助成、出産後1年間、紙おむつやミルクなどの購入代を支援する制度があり、子育て世帯を経済的にバックアップしています。

児童センターでは、放課後や休日における児童の安心・安全な遊び場として、さまざまな体験活動やイベント活動の拠点となっています。



風の子児童センター



認定子ども園 若草保育所

教育

ICT教育の実践



中学校

きめ細やかな教育支援

雄武町には4つの小学校と、中学校と高等学校(各1校)があります。郷土愛を育むふるさと学習や、ALTによる英語指導、タブレットを活用したICT教育なども実践されています。

また、漢字検定や英語検定など、資格取得にかかる費用の助成や、部活動や制服購入、修学旅行費用の助成など、少子化に対応したきめ細かな支援を展開しています。

地域の学校支援ボランティア活動も盛んで、読み聞かせ活動を通じて読書の習慣化による学力向上にも取り組んでいます。平成27年度には「新・学校給食センター」が完成し、給食費の助成や、高度な衛生管理のもと、個々のアレルギーにも完全対応した「安全・安心な給食の提供」にも力を入れています。



給食センター

福祉・保健

一生涯の健康づくり



町民の健康づくりは乳児から高齢者まで幅広く迅速に

雄武町民の健康づくりは、乳児から高齢者まで、町の保健師がサポートしています。

日頃の健康状態や治療状況などを記録しておく「救急医療情報キット」を配布しているほか、一人暮らしの高齢者などに対する「緊急通報システム」の設置により、病気や災害時における迅速なネットワークの整備が進められています。

また、生きがいや健康づくりのため、ハイヤー料金の助成や町内温泉施設の入浴優待券の交付も行っています。



医療・介護

地域包括ケアシステムの充実



健康ふれあいセンター



◎※雄武町国民健康保険病院では、医療スタッフを随時募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.town.oumu.hokkaido.jp/hospital/>



雄武町内は、国民健康保険病院と、個人開業医によるクリニック、歯科医院があります。国民健康保険病院は人工透析にも対応し、介護老人保健施設が併設されています。また、居宅介護サービスやデイサービス、特別養護老人ホームなど、介護ニーズにもきめ細かに対応しており、それぞれの実情に応じた相談体制、高齢者を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」が構築されています。



雄武町国民健康保険病院

防災

緊急災害時の対策



●防災マップと防災のしおり

東日本大震災以降、雄武町においても災害に対する意識が向上しています。雄武町ではいち早く、防災行政無線を導入し町内30カ所に無線スピーカーを設置し、万が一の緊急災害情報の伝達に備えています。また、実際に炊き出しなどを行う「全町防災訓練」を毎年実施しているほか、町内の標高を色分けで示した防災マップの配布や、公共施設などには「海拔表示板」を掲出して、日頃から防災意識を高める取り組みを行っています。



消防

火災予防や消火訓練への取り組み



火災・消火と救命訓練を定期的に実施

紋別地区消防組合雄武消防支署では、過去に雄武町で発生した2度の大火を教訓に、現在も100人以上の消防団員と連携し、火災予防や消火訓練に取り組んでいます。

救命救急では、町民を対象にAED(自動体外式除細動器)を実際に使った講習会を定期的に開催しています。



消防雄武支署

生活

快適な暮らしのための基盤整備



旗の波運動

●交通安全対策の地域ぐるみの積極的な組を行っています。



小型家電回収ボックス



環境

自然環境と住まい環境づくり



宮の森公園



町民誰もが安心して快適な暮らしができるよう、道路や公園、上下水道などの基盤整備、ごみの分別収集、冬期間の除雪など、自然と調和した環境づくりを進めています。

住まい環境では、公営・町有住宅の計画的整備のほか、雄武町の独自対策として、個人の住宅新築や改修、中古住宅購入経費を支援する「快適住まいづくり事業」に取り組んでいます。

また、安全なまちづくりのため、交通安全教室の開催や、防犯灯のLED化、近年増加する、高齢者などをターゲットとしたいわゆる振り込め詐欺の防止策として、「防犯用自動録音電話設置費用助成」による対策も進めています。



きらめき我が町事業

学習・文化

豊かに過ごすための生涯学習



人生をより豊かに過ごすには、生涯にわたって学び続け、文化やスポーツ活動を楽しむことが欠かせません。



図書館

町民大学

剣道

雄武町では、文化連盟や体育連盟の加盟団体による様々な活動が行われ、活動費用や大会遠征費用の一部助成により、町民文化の向上を図っています。また、「パークゴルフ」や、アイスホッケーに似た冬季スポーツ「ブルームボール」が気軽に楽しめるスポーツとして盛んに行われ、町民の健康増進にもつながっています。さらに、図書や郷土資料にふれあう機会を拡大するため、文化拠点の整備についても検討が進められています。



町が奨励するスポーツ「ブルームボール」

交流・友好

地域おこしと定住対策の取組



武雄市との児童交流



益子町児童訪問「交流体験の翼」



ふる郷ふれあい交流会



お試し暮らし用住宅「宮の森荘」

雄武町は佐賀県武雄市、栃木県益子町と、長年の交流により、友好関係を築いています。武雄市は地名が逆さまという縁で、児童の相互交流やイベント時における特産品の相互物販などに取組んでいます。益子町は、雄武町出身者が益子町で陶芸に魅せられた縁で、今では雄武町民による陶芸文化が根付き、児童来訪や特産品の出張販売が行われています。また、札幌と東京には

それぞれ、雄武町出身者による「ふるさと会」があり、毎年秋に交流会が催され、PR活動や情報交換を行っています。近年人気のお試し暮らし住宅は、生活に必要な家具や備品を備えており、特に夏場、涼を求めて本州から田舎暮らし体験者が数多く訪れます。また、移住者向け宅地の無償譲渡制度や、地域おこし協力隊制度による定住対策にも取り組んでいます。

行政



雄武町行政

町民との協働によるまちづくりをめざしています。



教育長
伊藤 正己



副町長
原 正美



町長
中川原 秀樹

全町自治会長会議



ドコデモまちづくり講座



町民参加の開かれたまちづくり

町民との協働によるまちづくりをめざし、地区別町政懇談会や全町自治会長会議を定期的に行っています。

また、町広報誌やホームページの充実や、町職員による出前講座の実施など積極的に行政情報の提供に努めています。

開かれたまちづくりには町民の参画が必要です。このため町が各種の計画策定や法制度の検討を進める際には、委員公募制度や意見公募（パブリックコメント）、政策公募制度など、多様な手法を取り入れています。

さらには、町の総合計画推進にあたっては、成果目標の設定とPDCAサイクルの手法を取り入れた行政評価制度を約10年前から導入し、予算編成に連動させることによって、着実に財政健全化が図られています。

議会

雄武町議会

町民と行政をつなぐパイプ役を担っています。



副議長
花田 一夫



議長
橋詰 啓史



雄武町では、より良いまちづくりのために様々な事業を進めています
が、そのためには、事業の根拠となる条例や予算を決めなければなりません。
そこで、町長から提案されるこれらの条例や予算などを審議し、決定
する機関が「町議会」です。また、町民と行政をつなぐパイプ役として、
町民の声を行政に反映させるといった重要な役割も担っています。雄武町
の議員定数は10人。年4回の定例会や必要に応じて開催される臨時会のほ
か、総務文教常任委員会や産業厚生常任委員会などにおいて、各分野の重
要課題について検討と審議が行われています。

町づくり

郷土愛に燃え、 明るく豊かなまちづくり

未来に向けて

雄武町長
中川原 秀樹

雄武町の町政における政策理念は
「人口減少危機を総力で打開するまちづくり」

国全体が人口減少時代に突入した現在、ようやく「地方創生」が叫ばれるようになりました。雄武町の人口は高度経済成長期には1万人を超えていましたが、現在はその半数以下に減少しました。全国で多くの自治体が同じ悩みを抱えています。私は、適度に危機意識を持ちつつ、過度に悲観をしないこと、これが非常に重要であると考えています。雄武町民には、自然を活かし厳しい気象条件を克服する力と知恵があります。そして、第一次産業を主軸とした基幹産業がしっかりと根付いており、全国に食を提供する農山漁村は必ず生き残ると信じています。このため私は「地域産業の成長による所得の向上と雇用創出」、これを重要政策の核としながら、「出産・子育て、高齢者の夢を叶える経済支援」「観光と文化・健康スポーツの拠点づくり」を重要政策に掲げ、このほか、移住・定住対策、中小企業の振興、快適な住環境の整備など、あらゆる政策を総合的に推進することによって、人口減少に歯止めを掛けたいと考えています。雄武町の人口ビジョンにおいては、現在約4600人の人口を「10年後も4000人台」を維持することを目標としました。このためには、町民と議会、行政が総力を挙げて人口減少という難題に挑み、私はそのリーダーとして、愛する雄武町の明るい未来のために、誠心誠意、全力で取り組んでまいります。



町の情報

OUMU TOWN

緯度: 44度34分
経度: 142度57分



雄武町概要

雄武町は北海道の北東部、日本最北の稚内市から世界自然遺産「知床」で有名な斜里町までのオホーツク海沿岸のほぼ中間に位置する町です。東部から南部は興部町・西興部村、南部から西部は下川町・名寄市・美深町との境に北見山脈が連なり、北西は枝幸町に隣接しています。

総面積は636.86km²。人口約4600人で小さな町ですが、オホーツク海の恵みによる水産業と、冷涼な気候に適した酪農畜産業が盛んに営まれています。

コミュニケーションマーク

アルファベット(OUMU)のOとMをモチーフにしたコミュニケーションマーク。

赤と黄色の円は日の出を、青のMはコバルトブルーのオホーツク海を、緑のMは背景に広がる草原を表現しています。

のびのびとダイ

ナミックなタツ

チで人々の心の

広がりを表して

います。



海・山・人ひびきあう町

オホーツク
雄武町

雄武町章

おうむのヲを六つ組み合わせる雪形にし、その中央に北斗星を配置して北見雄武を表現しています。また、青色は広大な空とオホーツク海を象徴しています。



雄武町民憲章

雄武町民わたしたちは、オホーツクのきびしい自然を生かし、父祖・先人の労苦を感謝しながら、郷土愛にみちた町づくりと、ひとりひとりのしあわせのため、いすこやかに、なごやかに、まめやかにい励まし合い、希望と自信をもつて、生きがいある生活につとめ、たしかな未来につながる信条をかかげて、朝夕守りとおすことを誓い合います。

●自然を生かし 住みよい環境をつくります。

●きまわりを守り 明るい社会をつくります。

●ともに助け合い 楽しい職場をつくります。

●元気に働き 豊かな家庭をつくります。

●希望に生き たくましい雄武町民となります。



UD 見やすく読みまちがえにくい
FONT ユニバーサルデザインフォントを
採用しています



海・山・人ひびきあう町
オホーツク
雄武町

〒098-1792
北海道紋別郡雄武町字雄武700番地
TEL 0158-84-2121 FAX 0158-84-2844
URL <http://www.town.oumu.hokkaido.jp/>

平成28年 雄武町 町勢要覧

発行：雄武町



町の花[ハマナス]



町の鳥[カッコウ]



町の木[トドマツ]